

# さきがけ公募説明会

2010年3月

独立行政法人科学技術振興機構

研究推進部 さきがけ担当



- JSTにおける「さきがけ」の位置づけ
- 「さきがけ」の制度概要
- 大挑戦型について
- 平成22年度の募集について
- これまでの応募・採択の状況

- JSTにおける「さきがけ」の位置づけ
- 「さきがけ」の制度概要
- 大挑戦型について
- 平成22年度の募集について

## 独立行政法人 科学技術振興機構

( Japan Science and Technology Agency )

科学技術基本計画の中核的实施機関として、我が国のイノベーションの創出の源泉となる「知の創造」から「研究成果の社会・国民への還元」までを、総合的に推進します。

それとともに、その基盤となる「科学技術情報の提供」、「科学コミュニケーションの推進」などを推し進めてまいります。

(JSTホームページより)

- 研究開発の推進

1. 新技術の創出に資する研究

2. 新技術の企業化開発

- 研究基盤の整備

3. 科学技術情報の流通促進

—科学技術の今を伝えます—  
**Science Portal**

**J-STORE**

**JDream II**

研究開発支援総合ディレクトリ  
**Read**

**J-STAGE**

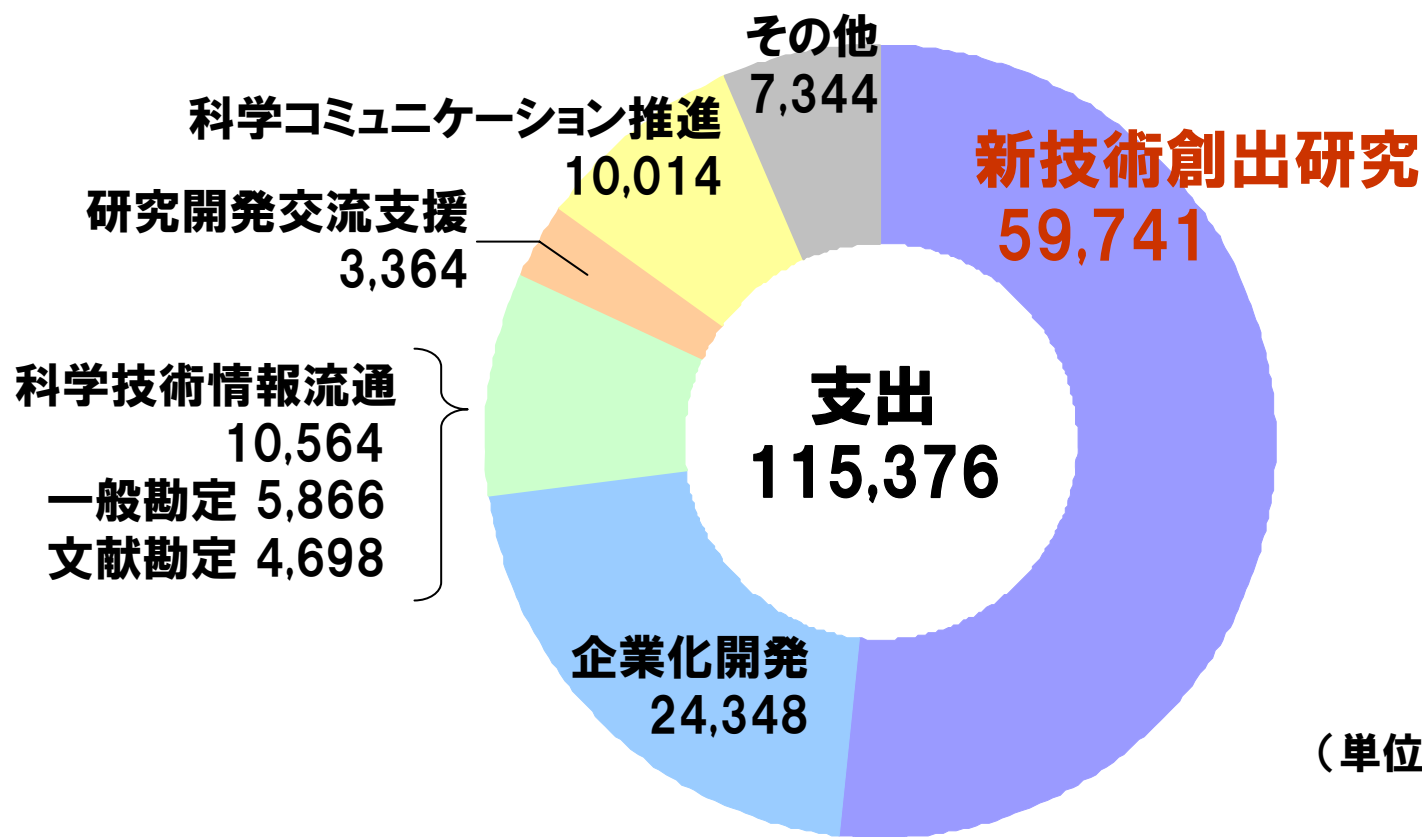
**JREC-IN** 研究者  
人材データベース

4. 科学コミュニケーションの推進

 **Miraikan**

5. 研究開発の交流・支援

## 平成21年度の支出

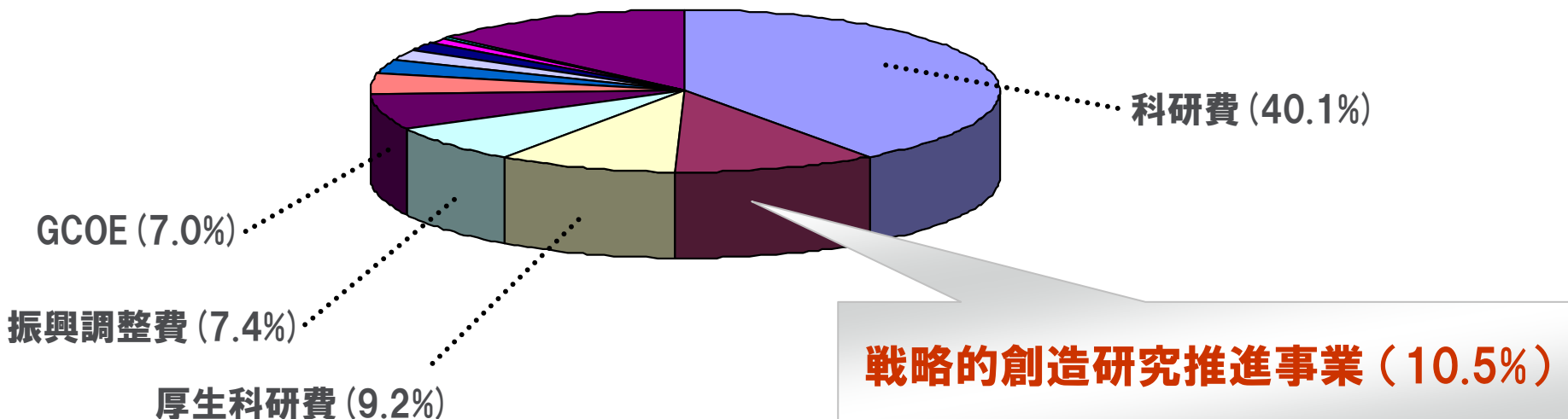


# 主な競争的資金制度

- 科学研究費補助金
- **戦略的創造研究推進事業（約516億円）**
- 厚生労働科学研究費補助金
- 科学技術振興調整費

など合計**51**制度

※平成21年度 競争的資金予算総額： 約4,900億円



平成21年度 競争的資金の構成比（文部科学省ホームページより）

# 戦略的創造研究推進事業の特徴

両制度が車の両輪として異なった側面からわが国の科学技術振興を担う

ボトムアップ型

トップダウン型



科学技術振興機構

科学研究費補助金<sup>※</sup>

研究活動により多様な学術の振興を図る

学術的に優れた独創的・先駆的な研究に対して補助

個々の研究者の自由な発想に基づく研究提案

戦略的創造研究推進事業

国の政策目標（科学技術基本計画）

国の戦略目標提示

研究領域・研究総括の設定

国の政策目標実現のために、研究内容に応じた形で優秀な研究者を動員して集中的に研究を推進

研究成果によるイノベーションの技術シーズを創成

※科学研究費補助金：  
文部科学省および日本学術振興会より交付されています。



国(文部科学省)が  
社会的・経済的ニーズをもとに、  
**戦略目標**を設定

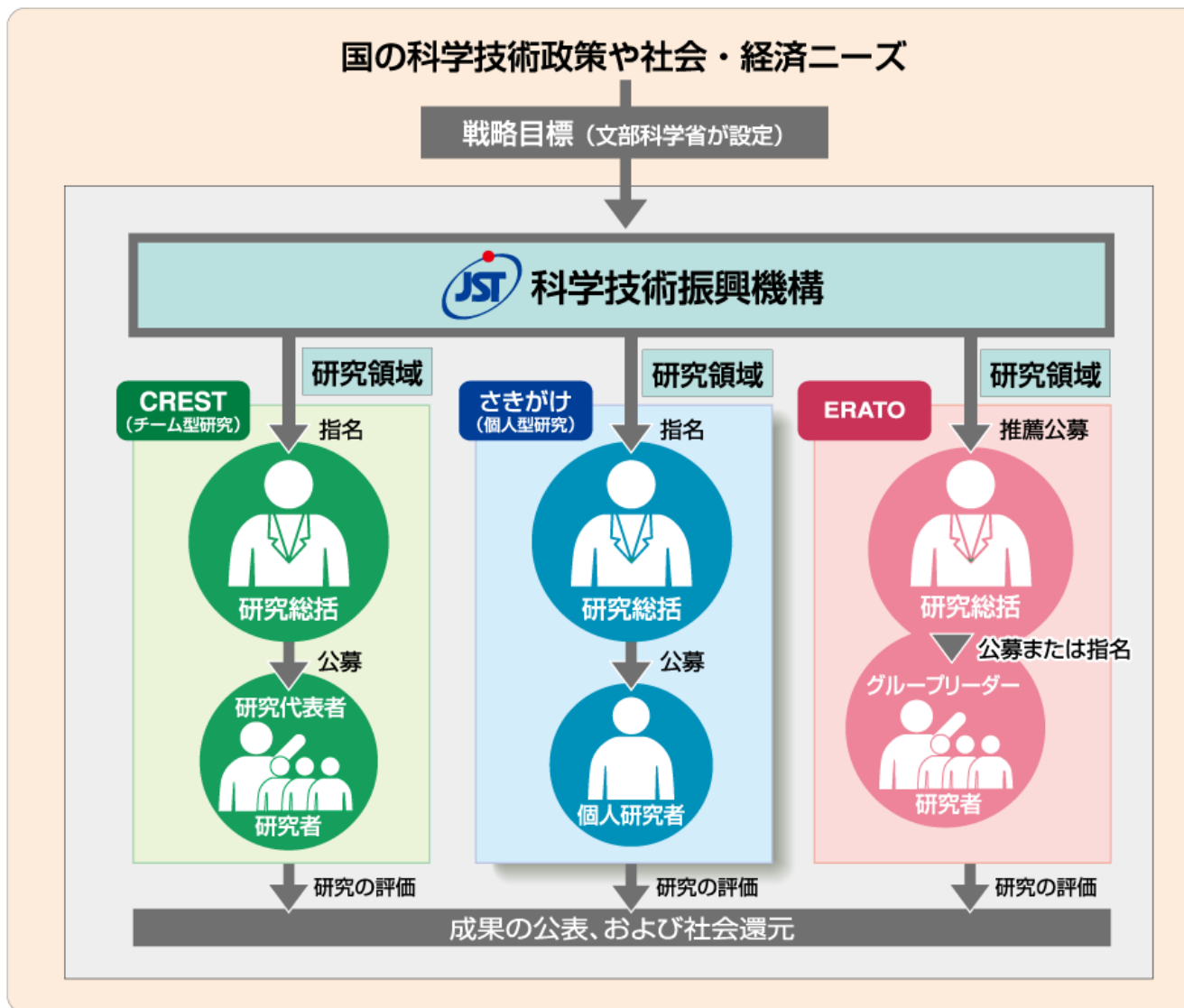


科学技術振興機構(JST)は  
戦略目標の下に**研究領域**を設定、**研究総括**を指名し  
研究領域毎に研究を推進

※**研究総括**は、研究領域の運営責任者として、戦略目標の達成に向けた研究領域全体の運営方針決定や研究マネジメントを行う。

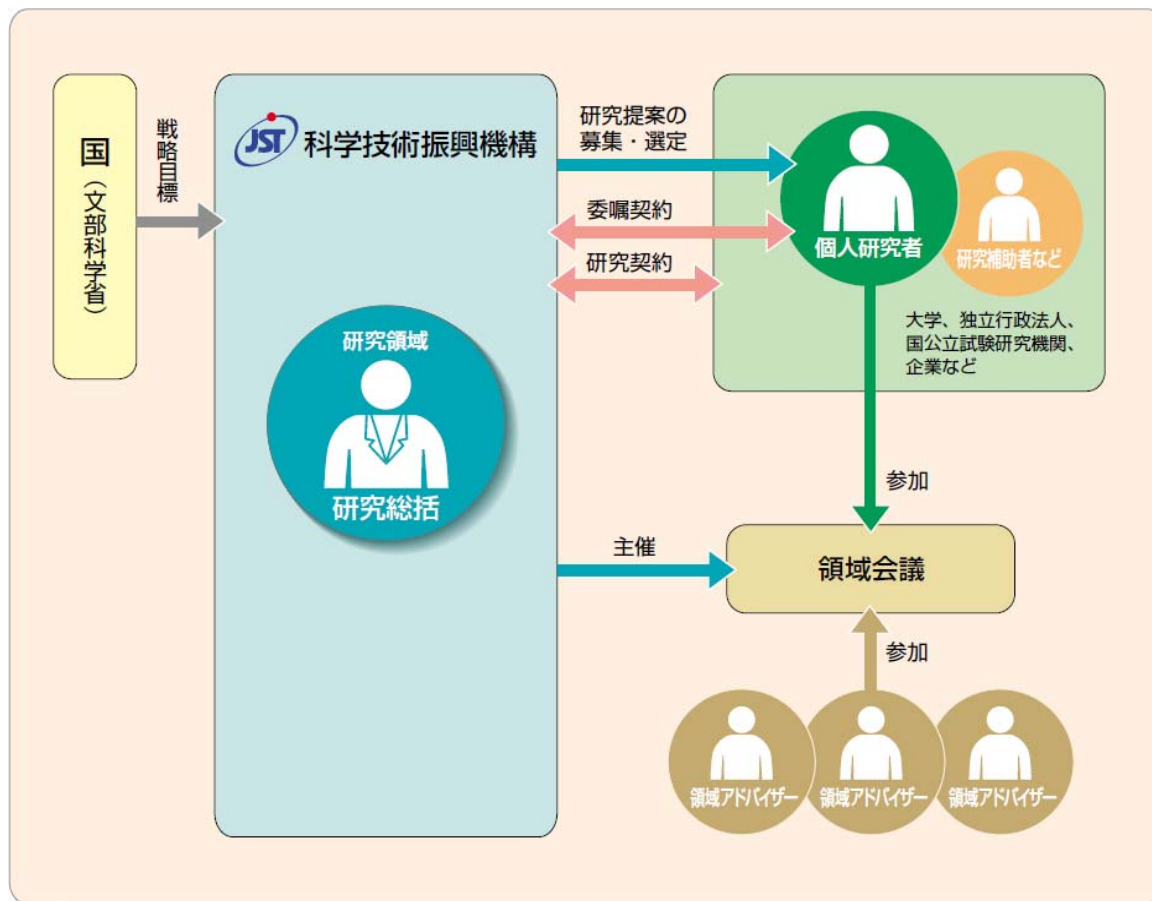
# 戦略的創造研究推進事業の仕組み

## ■事業のしくみ



- JSTにおける「さきがけ」の位置づけ
- 「さきがけ」の制度概要
- 大挑戦型について
- 平成22年度の募集について

## 未来のイノベーションの芽を育むために 個人で推進する研究



- JSTの戦略的創造研究推進事業の1つ
- 個人で研究を推進
- 研究期間は**3年 または 5年**  
(3年目 または 5年目の年度末まで)
- 研究費(総額)  
3年型－**3,000万円～4,000万円**  
5年型－**5千万円～1億円**
- 日本国籍を持つ研究者 または在日外国研究者

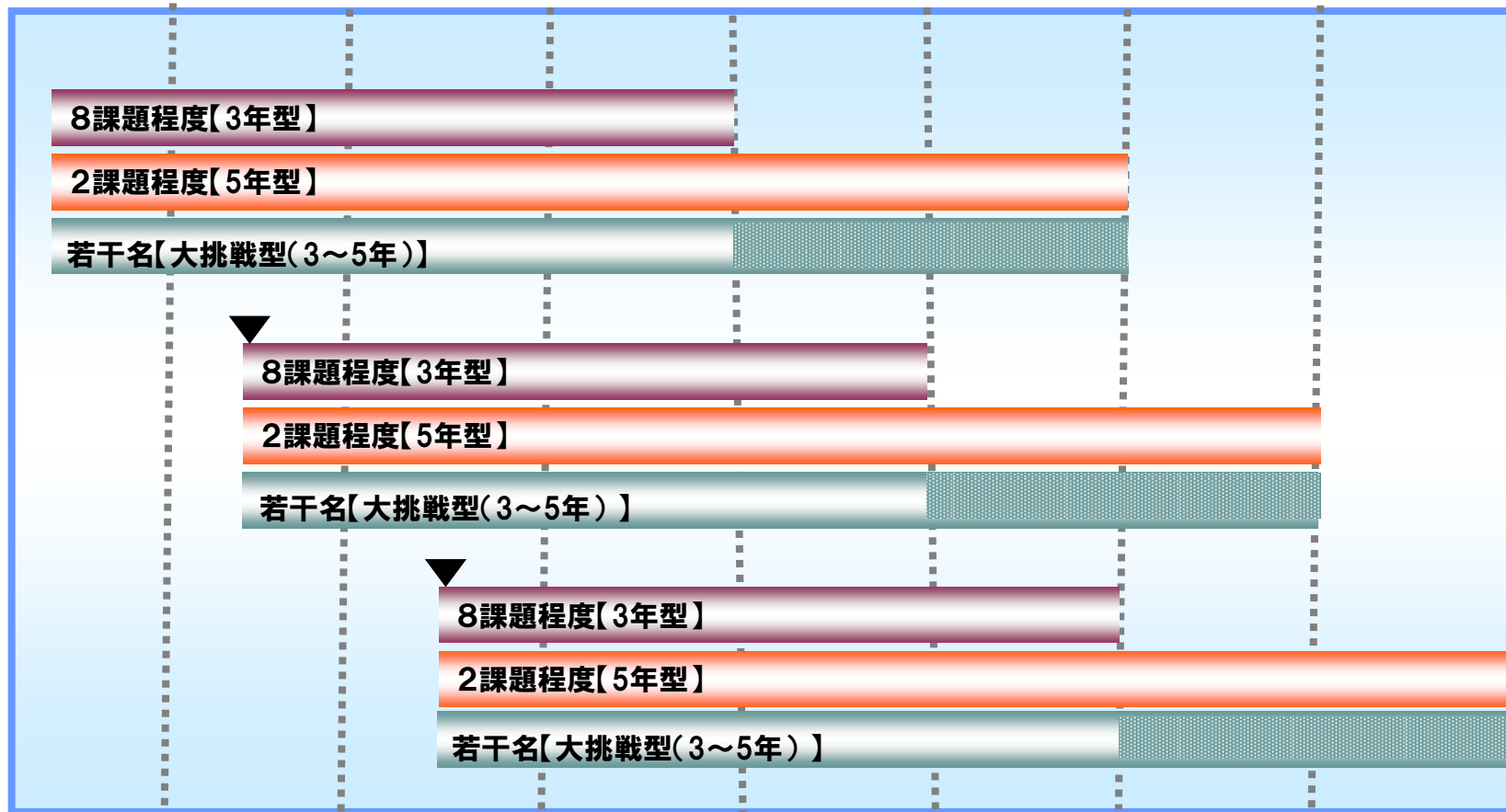
- **研究総括**  
研究領域の責任者  
研究領域の運営に中心的な役割
- **領域アドバイザー**  
1領域に10名程度  
研究総括をサポート(課題選考、領域会議)
- **領域スタッフ**  
技術参事、事務参事が日々の研究推進をサポート
- **領域会議**  
年に2回開催、非公開、合宿形式

# さきがけの仕組み(2)

- 戦略目標の下に設定された研究領域毎に募集・選考を実施
- 1つの研究領域は年1回×3回(3年)研究課題を募集
  - 3年型
  - 5年型
  - 大挑戦型 若干名 } × 3回 = 約30人
- 平成3年度以来52領域、のべ1,414名の研究者が参加
- H21年度は24領域で536名の研究者が研究を推進中

# さががけの研究領域の推移

1年次 ■ 2年次 ■ 3年次 ■ 4年次 ■ 5年次 ■ 6年次 ■ 7年次 ■ 8年次 ■





- さきがけ独自の「研究領域」の設定  
“幅広い分野”の研究者が同じ研究領域の下で  
各々の研究を進める
- 領域会議の開催
  - 研究総括、領域アドバイザーの助言・指導を受けながら研究を実施
  - 異分野の研究者同士の交流
- 専任研究者、兼任研究者、出向研究者
- 領域スタッフによるサポート  
(技術参事・事務参事)

- JSTにおける「さきがけ」の位置づけ
- 「さきがけ」の制度概要
- **大挑戦型について**
- 平成22年度の募集について

飛躍的、画期的な成果

困難な研究への  
果敢な挑戦と努力

明確な見通しが得難いが  
チャレンジングな研究への挑戦

# さがかけ大挑戦型の特徴(その1)

1. さがかけの応募者は**通常の選考(通常型)**に加え、**大挑戦型**としての審査も受けることができます。
2. 研究期間中に目指す**「挑戦目標」**を掲げ、研究総括の下で他の研究者と交流を持ちつつ**挑戦目標の達成に向けて研究を行っていただきます。**

## さががけ大挑戦型の特徴(その2)

3. 研究開始時は通常型と同様ですが、研究の進捗により研究費総額で**最大2倍程度までの増額**が認められる場合があります。
4. 研究総括の判断により**研究期間を延長する場合があります。**  
※最長で研究開始から5年目の年度末まで
5. 中間、事後評価では、**ハイリスク研究に挑戦したことを前提とした評価を行います。**

- JSTにおける「さきがけ」の位置づけ
- 「さきがけ」の制度概要
- 大挑戦型について
- 平成22年度の募集について

# 平成22年度募集について

**既存研究領域**と平成22年度に発足する**新規研究領域**とで募集期間を**2回に分けて**研究提案の募集を行います。  
第1期募集要項はJSTホームページにて公開中です。

## 第1期

3月16日～5月11日(正午)

### 既存研究領域

平成20,21年度に発足した10領域

## 第2期

5月下旬～7月下旬(予定※)

※予定であり、変更となる場合があります。

### 新規研究領域

平成22年度に発足予定の領域

# 第1期募集領域 ~平成20年度に発足した領域~

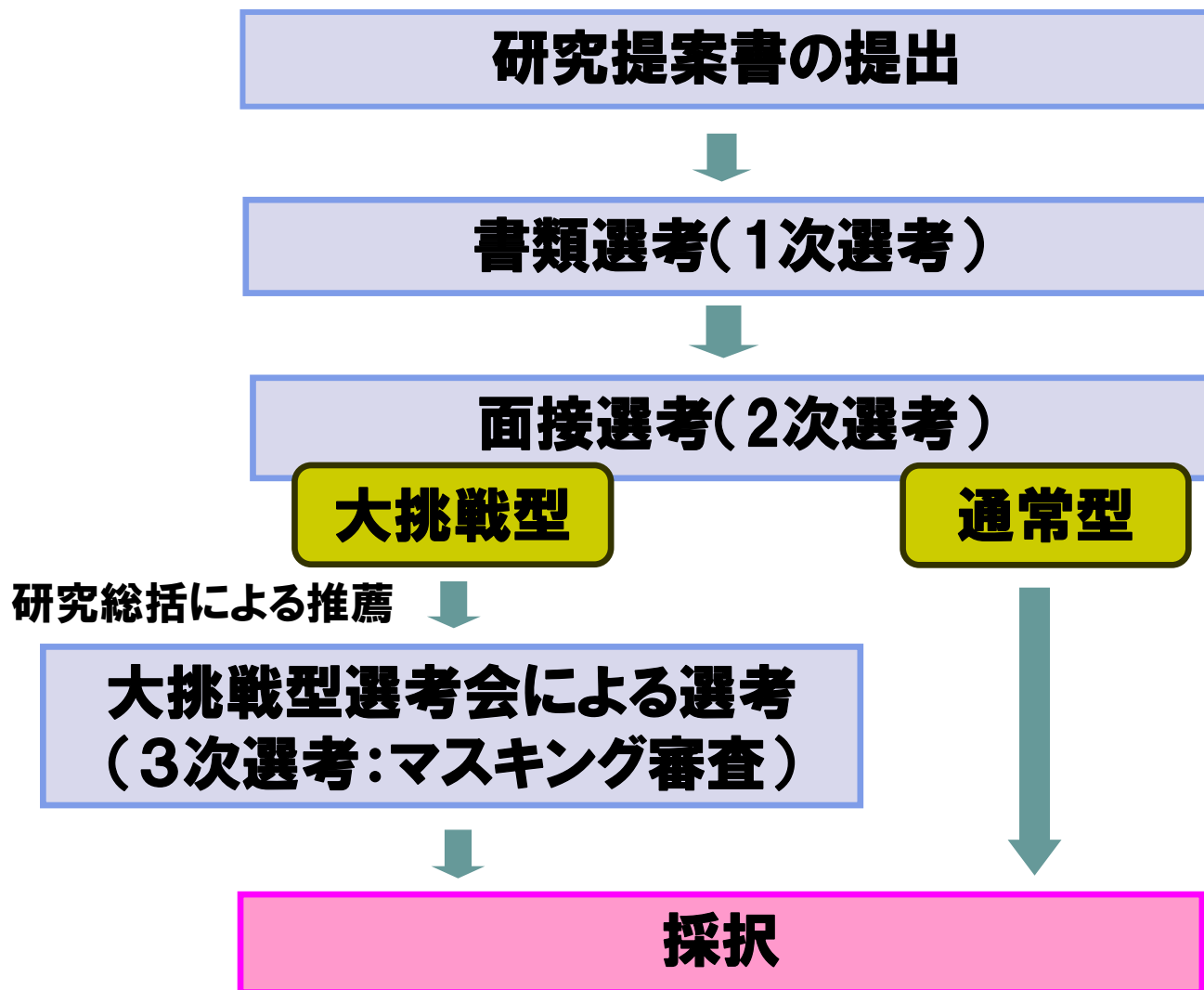
戦略目標	研究領域	研究総括
細胞リプログラミングに立脚した幹細胞作製・制御による革新的医療基盤技術の創出	iPS細胞と生命機能	西川 伸一 ( (独) 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 副センター長 )
最先端レーザー等の新しい光を用いた物質材料科学、生命科学など	光の利用と物質材料・生命機能	増原 宏 ( 奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科 特任教授 )
プロセスインテグレーションによる次世代ナノシステムの創製	ナノシステムと機能創発	長田 義仁 ( (独) 理化学研究所 基幹研究所 副所長 )
運動・判断の脳内情報を利用するための革新的要素技術の創出	脳情報の解読と制御	川人 光男 ( (株) 国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 脳情報研究所所長 )
多様で大規模な情報から『知識』を生産・活用するための基盤技術の創出	知の創生と情報社会	中島 秀之 ( 公立はこだて未来大学 学長 )



# 第1期募集領域 ～平成21年度に発足した領域～

戦略目標	研究領域	研究総括
人間と調和する情報環境を実現する基盤技術の創出	情報環境と人	石田 亨 (京都大学 大学院情報学研究科 教授)
異分野融合による自然光エネルギー変換材料及び利用基盤技術の創出	太陽光と光電変換機能	早瀬 修二 (九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授)
	光エネルギーと物質変換	井上 晴夫 (首都大学東京 国際センター長)
神経細胞ネットワークの形成・動作の制御機構の解明	脳神経回路の形成・動作と制御	村上 富士夫 (大阪大学 大学院生命機能研究科 研究科長)
細胞リプログラミングに立脚した幹細胞作製・制御による革新的医療基盤技術の創出	エピジェネティクスの制御と生命機能	向井 常博 (佐賀大学 名誉教授)

# 選考の流れ



# 平成22年度募集スケジュール（第1期）

研究提案の受付

3/16(火)~5/11(火)正午



書類選考会

7月頃



面接選考会

8月中旬まで(領域毎に異なる)



採択課題の発表

8月下旬



研究者説明会

9月上旬



研究開始

10月~

# 研究提案の要領

- 研究提案募集ホームページ  
<http://www.senryaku.jst.go.jp/teian.html>
  - 募集要項、提案書記入要領のダウンロード
  - 募集選考スケジュールの確認
  - 「研究領域の概要」および「研究総括の募集・選考・研究領域運営にあたっての方針」の確認
  - 応募方法の確認
- e-Rad（府省共通研究開発管理システム）  
<http://www.e-rad.go.jp/>

応募にあたっては、**募集要項**に記載されております

「府省共通研究開発管理システム(e-Rad)による応募方法について」  
を必ずご参照ください。

さきがけの各研究領域に共通の選考の基準は、以下のとおりです。

- a. 戦略目標の達成に貢献するものであること。
- b. 研究領域の趣旨に合致したものであること。
- c. 提案者自身の着想であること。
- d. 独創性を有していること。
- e. 研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。
- f. 今後の科学技術に大きなインパクト(新技術の創出、重要問題の解決等)を与える可能性を有していること。
- g. 研究が適切な実施規模であること。

大挑戦型では、次の基準を加えます。

- h. **実現の可能性の観点からは明確な見通しが得難いが、成功した場合に飛躍的、画期的な成果が期待できること。**

# 男女共同参画への取り組み



The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying the website <http://www.sakigake.jst.go.jp/nadeshiko/index.html>. The page features a pink and white color scheme with a large banner at the top that reads "さきがけ 'なでしこ' キャンペーン". Below the banner, there are navigation tabs for "トップ", "平成20年度採択者", "進行中領域", and "終了領域". The main content area is divided into several sections: "女性研究者の紹介とメッセージ" (Introduction and Message for Female Researchers), "ライフイベント" (Life Events), and "おしらせ" (Notice). The "おしらせ" section contains information about the 2019 research proposal collection, including a deadline of May 12, 2019, and a link to the collection HP. Below this, there are details for two collection说明会 (collection explanation meetings) on March 28 and 29, 2019, at Ritsumeikan University. The right sidebar includes logos for JST, Gender-Equal Society, and a call to action for the PRESTO logo.

<http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/nadeshiko/index.html>

- 若く卓越した研究者は必ずしも世に認められていないが、「さきがけ」はそのような研究者に励みを与えた点で成功を収めており、強い印象を与える。
- 研究総括がメンター(指導者)を努める制度は非常に有効である。研究者間のネットワークづくりを促すメンターの役割は多いに評価したい。

(JST戦略的創造研究推進事業国際評価報告書(2006年8月)より抜粋)

ありがとうございました

---

<http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/>  
[presto@jst.go.jp](mailto:presto@jst.go.jp)

